

2019年度 事業報告書

社会福祉法人 NHK厚生文化事業団

NHK厚生文化事業団 2019年度事業報告

時代とともに変化し多様化する福祉へのニーズに応えるため、事業団は、「発達障害」や「特別養子縁組・里親」、人を本に見立てその人の物語を読む「ヒューマンライブラリー」などのフォーラムを開きました。認知症については、フォーラムのほかに、29年度に新設した募集事業「認知症とともに生きるまち大賞」を継続し、間近に迫る認知症700万人時代への取り組みを支援しました。

また、「インクルーシブ防災」をテーマにフォーラムとワークショップを実施し、障害者や高齢者も取り残すことなく災害から守るためになすべきことを考えました。

パラリンピック東京大会に向けて、障害者スポーツへの理解を促進する事業に力を入れました。パラリンピック選手を小学校に派遣して子どもたちと交流するイベントを継続したほか、パラスポーツイベントに応援グッズを贈呈しました。

最新の福祉情報を必要な人に届けるため、NHK福祉番組などを貸し出す「福祉ビデオライブラリー」を継続して実施。事業団が独自にDVD教材を制作する事業も継続し、共にたくさんの方に活用してもらいました。

災害被災地を支援する取り組みも行いました。災害救護事業として台風15号、19号の被災地を支援するとともに、「わかば基金」の「災害復興支援部門」でも激甚災害指定を受けた現地の福祉活動を引き続き資金面から支援しました。

2019年度は、年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のために一部の事業を中止せざるを得ませんでした。中期経営計画に沿ってNHKの放送と連携し多様な福祉事業を実施しました。「働き方改革」の推進とガバナンス体制の強化を図りました。

○最新の福祉課題に正面から取り組み、理解促進と支援を促す

DVD教材「“新しい絆”の作り方～特別養子縁組・里親入門～」の一部を盛り込んだ特別養子縁組、里親への理解を促すフォーラムの他、「発達障害」や「インクルーシブ防災」のフォーラムをNHKのキャンペーン番組と連携して実施しました。認知症については全国7か所でのフォーラムに加え、3回目となる「認知症とともに生きるまち大賞」を実施して全国各地の取り組みを選考して表彰し、共生社会に向けての活動を後押ししました。

○事業団ならではの募集事業や公開イベントを放送と連携して行い、多様なスタイルで福祉情報を発信していく

「障害福祉賞」、公開イベント「コロケの“やさしいまち”探訪」を実施し、障害者・高齢者福祉に資する情報を発信しました。

○パラリンピック関連イベントを継続して実施

「交流教室 パラリンピアンがやってきた！」に加え、渋谷区主催のpara卓球の体験会の参加者に応援グッズを贈呈し、障害者への理解促進と障害者スポーツへの支援に努めました。

○きめ細かい福祉情報の提供

「福祉ビデオライブラリー」では、「新しい絆の作り方 特別養子縁組・里親入門」「優しい認知症ケア ユマニチュード」「“ひきこもり”からの回復」「発達障害」など、事業団制作教材の貸出数が上位を占めました。またホームページやフェイスブックでイベントの告知や実施内容をわかりやすく発信して、事業のPRなどの情報を届けることにも努めました。

○全国の福祉現場や災害被災地を支援

「わかば基金」による全国の福祉施設や災害被災地への援助、「製品販売会」を通しての東日本大震災被災地の福祉施設への支援などを行いました。

○「働き方改革」を推進するとともに、コンプライアンスを徹底しガバナンス体制を強化

毎月の「働き方総点検」で、時間外や勤労休暇取得日数、業務量のバランスなどを把握し適正な勤務管理に努めました。外部の専門団体との間で顧問契約を結び、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティなどの重点リスクについて、逐次、助言を得て業務を進めました。

目 次

1. 障害者福祉事業	2
2. 高齢者福祉事業	8
3. 被災地を支援する事業	11
4. 福祉情報の提供事業	12
5. チャリティー事業	15
6. その他の支援事業	16
7. 広報活動	20
8. 働き方改革とガバナンスの強化等	21
9. 後援・協賛した事業	22
10. 寄付金	23
11. 賛助会員・維持会員等	24
12. 役員	26
13. 2019年度末従業員数	26
〈資料〉・事業概要一覧	

1. 障害者福祉事業

(1) こどもの発達相談会および療育キャンプ

○こどもの発達相談会

大阪、名古屋、福岡において、ことばや発達の遅れた子どもとその親の相談会を11回実施した。知的や言語の発達の遅れ、自閉スペクトラム症（ASD）や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などの子どもの相談が多かった。

大阪	5回	相談件数	83件
名古屋	3回	相談件数	68件
福岡	3回	相談件数	45件

*新型コロナウイルス感染防止のため、大阪、名古屋、福岡ともに1回中止

○親と子の療育キャンプ

発達に遅れのある子どもたちが、自然の中で集団生活を体験する「やまびこキャンプ」を、これまでの2泊3日から日帰りに切り替えて「やまびこdayキャンプ」として実施。

8月10日 愛知県知多郡美浜町

参加者
75人

(2) 肢体不自由児・者の療育活動

肢体不自由児・者の療育キャンプを、支援団体の共催・協力により、各地で実施した。夏季、冬季の野外活動を通じて、参加者の自立と社会参加を促進し、あわせて交流の輪を広げた。

○第51回 フレンドシップ・キャンプ

9月28日～29日 福井県勝山市、敦賀市

参加者
40人

○第51回 高木記念山中キャンプ

8月18日～22日 山梨県山中湖村

59人

○第31回 雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ

(2020年) 1月 4日～6日 新潟県南魚沼市

79人

合計: 178人

(3) NHKハートフォーラム（発達障害）

自閉スペクトラム症（ASD）や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などについて、NHK番組「あさイチ」と連携したり、地元の「親の会」や「支援団体」、NHK地域放送局などと共催したりして、NHKハートフォーラムを6回開催した。

2019年度は、「思春期の発達障害」「ゲーム障害」「強度行動障害児」などをテーマに取り上げた。

			参加者
6月	1日	大阪府尼崎市 「強度行動障害児・者のよりよい支援」	490人
8月	5日	東京 「思春期の発達障害～本人・家庭・学校 どう向き合う?～」	204人
9月	23日	大阪市 「ゲーム障害の子ども・若者への支援」	311人
10月	26日	熊本市 「自閉症」	160人
11月	4日	大阪市 「子どもの発達障害～課題解決のヒントを探る～」	460人
12月	22日	沖縄県西原町 「発達障害（自閉症）」	420人
合 計：2,045人			

(4) NHKハートフォーラム（特別養子縁組・里親）

虐待や死別などで親と暮らせない子どもは45,000人。児童福祉法改正によって家庭養育優先が打ち出され、特別養子縁組・里親に数値目標を設けて増やすことになった。特別養子縁組・里親の解説と現状を踏まえ、識者、当事者らと今後の在り方を考えた。（事業団制作教材「新しい絆の作り方 特別養子縁組・里親入門」を使用）

			参加者
5月	12日	福岡市 「“新しい絆”の作り方 ～特別養子縁組・里親制度はいま～」	216人

(5) NHKハートフォーラム（ヒューマンライブラリー）

2000年にデンマークで始まった「ヒューマンライブラリー」は、社会の中で誤解や偏見を受けやすい人を“本”に見立てた相互理解を図るための対話形式のイベント。事業団主催の障害福祉賞の過去の受賞者6人に本の役割を担ってもらい、参加者との対話を通じて、障害へのさらなる理解を促した。

			参加者
7月	27日	東京・渋谷区 「ヒューマンライブラリー ～人生という “本”から障害への理解をふかめる～」	38人

(6) フォーラム「がんと生きる～こころとからだ 私らしく～」

高齢化の進展によって2人に1人ががんを抱え、3人に1人ががんによって死を迎える。がん医療が進歩する中、完治を目指す治療の一方で、痛みをできるだけ減らしていく緩和ケアが始まっている。医療従事者や当事者との対話を通して、最新の医療情報と本人に寄り添う支援のありようについて考えた。

			参加者
5月	26日	茨城県つくば市	459人
8月	4日	福島県郡山市	511人
10月	5日	広島市	449人
(2020年)			
1月	19日	兵庫県神戸市	768人
合 計：2,187人			

*NHKの放送

6月	14日	総合	茨城地域（5/26実施）
9月	1日	総合	福島地域（8/4実施）
(2020年)			
5月	16日	Eテレ	全国 「TVシンポジウム」（1/19実施）

(7) ハートカフェ@たによん

気軽に参加できる小規模講演会と、その講師が参加者と話し合う時間を多く設ける双方向性のあるフォーラムを2回実施した。

		参加者
7月15日	「コラボ バリバラ “きょうだい” の悩み」 (大阪歴史博物館講堂)	102人 (2020年)
2月8日	「HSC ～ひといちばい敏感な子への理解と子育て～」 (NHK大阪放送局 第6・7会議室)	57人

合 計: 159人

(8) 全国防災キャラバン「わが町のインクルーシブ防災」

どこで起きてもおかしくない地震、津波、台風、集中豪雨などの自然災害。そのたびに失われる高齢者や障害者、子どもたちなどの「災害弱者」の命。こうした人たちの命を取り残さず救うという「インクルーシブ防災」の普及・啓発を促すワークショップを、西日本豪雨の被災地や首都直下地震で被害が想定される地域など3か所で実施した。

東日本大震災時の障害者の支援や調査を行った講師の話聞き、「自然災害が起きた時、あなたはどうか行動するか」というテーマをゲーム形式で考えた。

		参加者
7月16日	広島県呉市 呉市役所	49人
12月1日	静岡県 静岡市立豊田中学校	150人
12月8日	神奈川県横浜市 関東学院大学金沢文庫キャンパス	32人

合 計: 231人

(9) NHKハートフォーラム (インクルーシブ防災)

福祉防災学の専門家、障害当事者、西日本豪雨で被害を受けた福祉施設の代表などに登壇してもらい、NHKの番組映像を交えながらインクルーシブ防災を考えた。

		参加者
2020年	1月18日 東京都千代田区	106人

(10) 障害者スポーツイベント

○交流教室 パラリンピアンがやってきた!

東京オリンピック・パラリンピックを控え、パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちと障害者スポーツを楽しみ交流する「パラリンピアンがやってきた!」を7回実施した。

		参加者
6月25日	千葉県立船橋特別支援学校 「ゴールボール」	112人
7月18日	東京都墨田区立第二寺島小学校 「車いすバスケットボール」	90人
9月30日	北海道幕別町立幕別小学校 「車いすラグビー」	155人
10月17日	東京都新島村立新島小学校 「ブラインドサッカー」	109人
11月21日	東京都立川市立大山小学校 「陸上」	179人
12月18日	東京都中野区立桃園第二小学校 「シッティングバレーボール」	1人
(2020年)	2月4日 沖縄県立沖縄盲学校 「ブラインドサッカー」	74人

合 計: 780人

○NHK福岡スポーツフェスタNEXT

車いすラグビー、ゴールボールの体験会などを実施し、パラスポーツの魅力と楽しさを伝えた。

11月12、13日

NHK福岡放送局

参加者
270人

○パラスポーツのイベント参加者に応援グッズを贈呈

パラリンピック東京大会に向け、選手の最高峰のプレイを間近で観戦、応援することで、パラスポーツへの理解と関心を高める渋谷区主催のイベントに協力した。

12月14日 渋谷区オリパラ競技リアル観戦事業【パラ卓球】

(渋谷区スポーツセンター)

イベント参加者全員に、応援用タオルを配布した。

○第53回スポーツの集い

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会で、東京都障害者スポーツ協会と協力して開催した。参加者は、100m競争、大玉ころがし、綱引き、リレーなどを行った。

9月4日 東京・調布市

武蔵野の森 総合スポーツプラザ

参加者
2,000人

(11) 障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

事業団とNHK共済会が平成23年度より共同で実施している「福祉施設で作られたお菓子などの販売会」を、東京のNHK放送センターで6回開催した。

12月の障害者週間に実施した回は、「手づくりの心届けます市」と称して渋谷区内8団体の製品を展示販売。3月は、東日本大震災被災地支援として福島県内の事業所が作った製品の販売を行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋市で、愛知県社会福祉協議会、NHK名古屋放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

11月24日 名古屋市 「福祉の星フォーラム」

参加者
150人

(12) 第54回NHK障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」には393編の応募があった。選考の結果、次の作品が入選した。

第1部門： 障害のある本人の部門

第2部門： 障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募数 393編 (第1部門: 287編、第2部門: 106編)

(入選作)

最優秀	「目指せ、だるま！ ～私の躁鬱ひきこもり体験記～」	赤岩 真詠 (東京都)
優秀 (第1部門)	「幻聴ですよ、中村さん」 「私の西日本豪雨体験記」	中村 満 (大阪府) 山崎 克枝 (岡山県)
(第2部門)	「うさぎと一緒に」 「妻、そしてママを支えて ～夫婦足して100」	石川 洋子 (神奈川県) 小松崎 潤 (埼玉県)
矢野賞	「私が歩んできた二つの人生」	松浦 常子 (愛媛県)

佳作 5編

入選作品は「第54回障害福祉賞入選作品集」として広く頒布したほか、朗読による音声版(テープ、デジタル録音)、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は12月6日にNHK放送センターで行った。また入選作品や受賞者の思いを、12月10日「ラジオ深夜便」(ラジオ第1)、2020年1月7日、8日の「ハートネットTV」(Eテレ)や、1月19日、2月2日「視覚障害ナビ・ラジオ」(ラジオ第2)で紹介された。

(13) NHKハート展

○第24回ハート展

24回目の「NHKハート展」には、障害のある人が綴った詩3,205編が寄せられ、その中から選ばれた50編の詩と、その詩をもとに各界の著名人が制作したアート作品を組み合わせ展示した。

それぞれの想いがこもった50対の作品は、2019年4月25日から5月5日まで東急百貨店本店で開かれた東京展をはじめ、2019年度中に、札幌市、広島市、八戸市、仙台市など全国11か所の巡回展で紹介した。

入場者は4万3,988人。放送では作品の紹介や作詩者、作画者のインタビューを、Eテレの「ハートネットTV」などで取り上げられた。

○巡回展 会場・入場者数 (11会場)

展	会 期	会 場	入場者数
東京	2019年 4月25日(木)～5月5日(日・祝)	東急百貨店本店	3,936人
野々市	5月16日(木)～5月28日(火)	学びの社ののいち カレード (石川県)	2,072人
札幌	6月1日(土)～6月14日(金)	さっぽろ地下街 オーロラプラザ	10,249人
名古屋	8月14日(水)～8月28日(水)	セントラルパーク セントラルギャラリー	12,750人
静岡	9月14日(土)～9月29日(日)	静岡県コンベンションアーツ センター グランシップ	3,058人

岡山	10月10日(木)～10月15日(火)	岡山天満屋	1500人
甲府	11月15日(金)～11月24日(日)	NHK甲府放送局	636人
広島	11月30日(土)～12月13日(金)	NHK広島放送局	3,257人
八戸	2020年 1月9日(木)～1月16日(木)	八戸ポータルミュージアム はっち (青森県)	5,234人
仙台	1月21日(火)～1月30日(木)	NHK仙台放送局	940人
徳島	2月7日(金)～2月16日(日)	NHK徳島放送局	356人
秋田	3月19日(木)～3月30日(水)	NHK秋田放送局	新型コロナウイルス感染防止のため中止

合計 43,988人 (1会場平均 3,999人)

2. 高齢者福祉事業

(1) 番組と連動した福祉イベント「コロッケの“やさしいまち”探訪」

「ハートネットTV めざせ!いきいき長寿」の後継番組で、共生社会への取り組みや老いをいきいきと過ごすためのヒントを伝える番組「出張!ハートネット やさしいまちのレシピ」の公開収録が全国2か所で行われた。収録後に、番組MCのタレント・コロッケさんによる福祉講演会を開催した。

*公開収録番組には、2回とも事業団主催事業「認知症にやさしいまち大賞」を受賞した団体が出演し、受賞した取り組みが紹介された。

		参加者
6月15日	新潟県湯沢町	518人
*NHKの放送 7月24日 Eテレ「ハートネットTV」		
9月21日	大阪府堺市	340人
*NHKの放送 10月16日 Eテレ「ハートネットTV」		
		合計: 858人

(2) 認知症のフォーラム

NHKや各種団体と協力して多様な認知症のフォーラムを全国7会場で開催し、認知症の当事者やその家族、医療、介護従事者など2,891人が参加した。

○NHKハートフォーラム（認知症）

医療・介護の最新情報や望ましいあり方、地域での支援体制の課題について話し合った。「ユマニチュードから考える“認知症に優しいまち”」では、認知症ケア ユマニチュードの考案者イヴ・ジネストさんから、家族でもできるユマニチュードの技術を話してもらい、それをもとにどうしたら認知症の人達と共生していけるかを考えた。「認知症700万人時代 ~本人の声を聴き、当事者と創る新時代~」では、当事者や支援者を交え、当事者が暮らしやすい地域を創るにあたってそのニーズをどのように捉え、どのように実践したらいいのかを考えた。

		参加者
6月16日	東京「ユマニチュードから考える“認知症に優しいまち”」	632人
6月22日	北海道札幌市 「認知症700万人 当事者と創る新時代 ~認知症にやさしいまちとは~」	114人
12月7日	宮崎市 「認知症とともに生きるまちとは」 (2020年)	140人
1月11日	三重県津市 「認知症に学ぶ」	382人
2月16日	福岡県北九州市 「認知症」	180人
		合計: 1,448人

○フォーラム「超高齢社会を生きる ～認知症の人の思いから始めるまちづくり～」

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには何が必要なのか？そのための情報やサポートについて、当事者、医療関係者、地域の福祉担当者らとともに話し合い啓発につとめた。

11月 4日	仙台市	参加者 568人
(2020年)		
2月 9日	東京都立川市	499人

合計：1,067人

*NHKの放送

12月22日 総合 宮城県域（11/4実施）

○フォーラム認知症新時代 「いきいきと暮らすために」

医療・介護の最新情報と、認知症の人と家族を支援する地域の先進的な取り組みを紹介して当事者、家族、医師、地域の人々が語り合い、地域支援の輪が広がるように努めた。

11月24日	東京都千代田区	参加者 376人
--------	---------	-------------

*NHKの放送

2020年 2月 8日 Eテレ 全国「TVシンポジウム」

○認知症に関するパンフレットの配布

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」（19年度作成・23万部刷成）と、冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」（20年度作成・16万部刷成）、あわせて7,725部をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

（3）第3回 認知症とともに生きるまち大賞

「認知症700万人時代」を目前に控え、認知症の人たちと共に安心して暮らしていくための多様な取り組みの喚起をねらいに、全国から活動事例を募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。（前年度まで実施した「認知症にやさしいまち大賞」を改称）

応募は47件。その中から本賞・ニューウェーブ賞併せて7件を表彰した。

表彰式を一般参加者を集めて実施。授賞した活動の紹介と記念シンポジウムを行った。

<受賞団体>

本賞	○高齢者・こども110番：地域食堂「きたほっと」	(北海道北見市)
	○ボランティア団体marugo-to まるごと	(新潟市)
	○さがみはら認知症サポーターネットワーク	(神奈川県相模原市)
	○独自ブランド“sitte”プロジェクト	(京都市)
	○ゆめ伴プロジェクトin門真	(大阪府門真市)

ニューウェーブ賞

- 岩手西北医師会認知症支援ネットワーク (岩手県滝沢市)
- 日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース (埼玉県宮代町)
/横浜市総合リハビリテーションセンター

参加者

12月 7日 東京・千代田区 表彰式・記念シンポジウム 140人

*NHKの放送

2020年 1月26日「どーもNHK」で受賞団体を紹介

(4) NHK介護百人一首

日々の介護の様子や思いなどを詠んだ短歌を募集して珠玉の作品を選び、「介護百人一首2020」として作品集にまとめた。14回目になる30年度は、11歳から103歳までの幅広い年齢層から9,791首の応募があった。

入選作品は、Eテレ「ハートネットTV」で、年間を通じて定期的に紹介された。

3. 被災地を支援する事業

(1) 台風15、19号の被災地への支援金

2019年度は、台風15号、19号による大きな被害が出たため、事業団が災害救護事業のために積み立てていた1000万円で、過去に事業団・わかば基金で支援した福祉施設などに再び支援金を贈った。

- ・ NPO法人ハンス・バーガー協会 サポートセンターリーチェ（宮城県岩沼市）
→ビニールハウス修繕費として49,425円
- ・ NPO法人すだち福祉会 地域活動支援センターげんき（福島県郡山市）
→送迎・運送用車両とビルトインコンロ購入費として2,586,920円
- ・ NPO法人真ごころ 放課後等デイサービスまごころ「はなのい」（千葉県柏市）
→エアコン修理費として248,000円

3施設 計2,884,345円

- ・ 台風15号被災地に、千葉県共同募金会を通じて 3,500,000円
- ・ 台風19号被災地に、中央共同募金会を通じて 3,615,655円

(2) “明日へ”のテーマ曲「花は咲く」の著作権料による義援金など

2019年度もNHK東日本大震災プロジェクトの復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料1,418万円を義援金として被災地へおくれた。

また、東日本大震災で被災した福島県内の福祉作業所が作った菓子や名産品の販売会を2020年3月3日に東京の放送センターで行った。

4. 福祉情報の提供事業

(1) 福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はNHKの福祉番組をDVDに複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。

○福祉ビデオライブラリー

2019年度に新しくライブラリー化した番組は36。「ハートネットTV」などテレビの福祉番組や、「ETV特集」「クローズアップ現代+」など視聴者からの反響が大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をDVDに複製した。また、事業団が制作した福祉DVD教材もライブラリーに加えた。

年間の貸出利用は4,285本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。

利用した人が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉DVD「優しい認知症ケア ユマニチュード」(627本)。つづいて「ひきこもりからの回復」(231本)。「新しい絆の作り方 特別養子縁組・里親入門」(132本)、「発達障害の子どもたち～“自立”をめざして」(95本)、「大人の自閉症スペクトラム」(72本)で、いずれも事業団制作のDVDだった。

2019年度 複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
36番組	604番組	4,285本(枚)

◎これまでの利用数累計：20万2,241本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

NHKの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして2003年度から行っている。2019年度は、ハートネットTV「シリーズ 認知症 当事者とつくる新時代」、シリーズ 平成がのこした“宿題”「災害弱者」、ETV特集「静かで、にぎやかな世界 ～手話で生きる子どもたち～」など5本を字幕化した。

ライブラリーは通算105番組で、全国57の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したNHKの番組をデジタル録音のDAISYに複製して、全国47か所の委託施設で貸し出しを行っている。

2019年度はNHKの『ラジオ文芸館』から「たった一人のオリンピック」(山際淳司)「最後の親孝行」(谷口雅美)、「一休譚」(赤瀬川隼)『FMシアター』から「最後の一人になるために」、『新日曜名作座』から「吉川英治短編集」を複製した。

貸し出し利用は年間4,300本あまりで、「ラジオ文芸館」の利用が多かった。

2019年度 複製作品数	年間利用本数
6番組 8作品	4,351本(枚)

◎これまでの利用数累計：199万0,627本

(2) 福祉DVD教材「摂食障害 理解と回復のために」の制作

「摂食障害」は、食行動に異常をきたす心身症で、食事量を極端に制限しようとする「拒食症」と、大量の食事を発作的に摂取する「過食症」とがあり、10～20代の女性に多く潜在患者数は75万人とも推計されている。しかし”病気“という認識が十分でなく専門医も少ないために治療の機会を逃し、重症化する事例が後を絶たない。そこで「摂食障害」への理解を深め、回復のためには何が必要かを解説するDVD教材を制作した。

福祉DVD教材（テキストつき）は3枚組で700セット制作し、全国の自治体、保健所、医療機関、児童相談所、高校・大学の保健センター、家族会などに配布して貸し出しを委託し、併せて福祉ビデオライブラリーからも貸し出しを行う。

（各巻の内容）

第1巻 「摂食障害かなと思ったら」

第2巻 「家族・支援者の皆さんへ」

第3巻 「経験者に聞く 回復までの道のり」

監修：鈴木真理（跡見学園女子大学 特任教授、内科医）

小原千郷（文教大学 特任教員・専任講師、公認心理師）

なお、本事業はJKAの補助金を得て実施した。

(3) 「認知症」「思春期のこころの病」「がん患者のための体と心の緩和ケア」の冊子を希望者へ配布

○「もの忘れが気になるあなたへ」

（監修：小阪憲司 横浜市立大学名誉教授）

認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は23万部となった。2019年度は4,225部をフォーラムの参加者や希望者に無料で配布した。送料は利用者負担。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」

（監修：須貝佑一 認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）

認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は16万部。

2019年度は、3,500部を無料配布した。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

(監修：青木省三 川崎医科大学精神科学教室教授)

思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子で11万部作成。

2015年度に在庫がなくなったが、ホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするNPOなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア

～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～」

(監修：的場元弘 青森県立中央病院 緩和医療科 部長)

がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説したもので4万部を作成。2018年度に在庫がなくなったので、ホームページで見られるようにした。

5. チャリティー事業

2019年度は以下のチャリティーを行った。

(1) NHK番組公開チャリティー

催物名	期 日	会 場	売上高 等 (単位：千円)
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜東京公演＞ (16回 8日×2回)	5月3日～6日 11月1日～4日	NHKホール	(寄付額) 2,308
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜地方公演＞ (22回)	7月13日 ～ 2020年2月15日	群馬県太田市ほか 全国9か所	(寄付額) 4,900 ＜2020年度入金予定＞
いないいないばあっ！ ワンワンわんだーらんど (26回)	4月21日 ～ 2020年2月9日	山梨県甲府市ほか 全国10か所	(寄付額) 4,804 ＜2020年度入金予定＞

(2) 事業団企画チャリティー

催し物名	期日	会場	売上高 等 (単位：千円)
第52回日本陶芸倶楽部会員 チャリティー作品発表展	6月25日 ～6月29日	竹橋 アートサロン 毎日	(寄付額) 960
NHK厚生文化チャリティー 展 (2回)	11月6日～12日 12月11日～16日	名古屋 三越栄店 金沢 名鉄エムザ	(売上高) 8,440
障害者のための女流義太夫 チャリティー演奏会	12月14日	紀尾井小ホール	(寄付額) 115
N響「第9」チャリティー コンサート	12月25日	NHKホール	(売上高) 21,772
第53回NHK福祉大相撲 ※	2020年 2月11日	両国 国技館	(売上高) 23,987

「※」印は物品などの贈呈をした催しで、詳細は6.(4)に記載

6. その他の支援事業

(1) 第31回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動を続けているグループを支援するために設けられたもので、今回で31回目。

前回（第30回）から設け、全国の激甚災害の被災地から申請を募った「災害復興支援部門」には21のグループから申請があった。

また、「支援金部門」には224グループ、「リサイクルパソコン部門」には112グループから申し込みがあった。

「リサイクルパソコン部門」は、NHKやNHK関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、NHKグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国19グループに総額1,190万円の支援金、21グループに50台のパソコンを贈った。また、支援総額は、パソコン費用を含め1,377万円。

なお、初回からの贈呈件数は788に上る。

<支援金部門 支援先>*16グループ *支援金総額：961万円

北海道石狩市	NPO法人サムリブ	フードプロセッサ 他	54万円
岩手県釜石市	NPO法人障がい者自立支援センターかまいし	車両	86万円
岩手県北上市	NPO法人パワーアップ支援室	除雪機 他	85万円
埼玉県深谷市	彩の国レッドキング	サッカーユニフォーム 他	82万円
千葉県大網白里市	前向き闘病の会	リーフレットの点訳	4万円
神奈川県横浜市	虹色畑クラブ	簡易トイレ	44万円
長野県駒ヶ根市	駒ヶ根点字サークル	点字プリンター	100万円
岐阜県笠松町	NPO法人つなぐプロジェクト	遊具	40万円
京都市	NPO法人京都DARK	農機具	30万円
京都市	NPO法人そらいろプロジェクト京都	バリカン 他	34万円
京都府長岡京市	チェリッシュクラブ	楽器、大型絵本	10万円
大阪府吹田市	NPO法人弱視の子どもたちに絵本を	タブレットPC 他	93万円
広島県福山市	NPO法人びいあらいぶ 指定障害福祉サービスほっとはうすのばら	オープン	85万円
愛媛県松山市	NPO団体 志リレーションLab	タブレットPC 他	94万円

福岡県宇美町	難病NET.RDing福岡	テント、テーブル 他	20万円
沖縄県宮古島市	NPO法人いらうゆう	浄化槽、給水配管の整備	100万円
<災害復興支援部門 支援先>*3グループ *支援金総額：229万円			
宮城県気仙沼市	NPO法人ピースジャム	ミシン	48万円
福岡県朝倉市	杷木復興支援ベース	農機具、肥料	100万円
熊本市	NPO法人NCK 重症児子ども発達支援センターエイムズ小山	エアコン	81万円
<リサイクルパソコン部門 支援先>*21グループ *リサイクルパソコン贈呈：50台			
北海道室蘭市	NPO法人くるくるネット		3台
北海道函館市	函館中途失聴・難聴者協会		2台
新潟県小千谷市	小千谷市音声訳の会		1台
栃木県佐野市	NPO法人シュシュ		2台
群馬県前橋市	NPO法人ぐんま若者応援ネット		3台
群馬県前橋市	NPO法人ターサ・エデュケーション		3台
埼玉県さいたま市	埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会		2台
千葉県浦安市	DAISY図書はまゆう		3台
東京都練馬区	NPO法人ハッピーひろば		3台
東京都荒川区	NPO法人女性ネットSaya-Saya		3台
富山市	視覚障害者ITサポートとやま		3台
京都市	NPO法人SEEDきょうと		2台
奈良県天理市	NPO法人らいず 多機能事業所すたんどあっぷ		3台
和歌山県橋本市	朗読ボランティアサークル テープはしもと		2台
兵庫県伊丹市	朗読ボランティアグループ 玉手箱		1台
愛媛県松山市	松山市精神保健ボランティアグループ ひばり		1台
福岡市	音訳ゆりかもめ		3台
鹿児島県南九州市	NPO法人ニアあなたの近くに		3台
沖縄県八重瀬町	沖縄県 聴覚障害児を持つ親の会		3台
沖縄県宮古島市	宮古島地域精神医療保健福祉研究会		2台

(2) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

「2019年度NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい」を、NHK、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で12月1日～25日の間実施した。

「歳末たすけあい」の義援金は、中央共同募金会を通じて被災した福祉施設への支援のほか、障害のある人や、援助や介護を必要とするひとり暮らしのお年寄り、援助を必要とする子どもたち、長期療養生活をしている人や生活が困難な世帯などに配分される。

「海外たすけあい」では、日本赤十字社が赤十字国際機関と協力し、紛争や自然災害に苦しむ人たちのために使われる。

受付件数・金額（全国集計）

	NHK歳末たすけあい		NHK海外たすけあい	
2019年度	3万6,953件	5億6,474万3,864円	7万7,167件	6億5,656万1,824円

(3) 「災害たすけあい」受け付けの実施

事業団ではNHK、日本赤十字社、共同募金会とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。2019年度は、前年度から継続する国内3件について実施した。

	期 間	日数	金 額
平成30年7月豪雨岡山県 災害義援金	2018年7月10日～ 2020年6月30日	722日	142億1,072万4,784円 *2020年3月12日現在
平成30年7月広島県豪雨 災害義援金	2018年7月12日～ 2020年6月30日	720日	100億9,230万7,036円 *2020年3月10日現在
平成30年北海道胆振東部地震災害 義援金	2018年9月11日 ～2020年3月31日	660日	56億7,301万7,306円 *2020年3月2日現在

(4) 物品などの寄贈

○NHK福祉大相撲による「福祉相撲号」の寄贈

2020年2月11日に開催した「第53回NHK福祉大相撲」（入場者4,228人）の純益により福祉車両「福祉相撲号」5台を購入し、これに協力団体からの寄贈1台と合わせて合計6台を障害のある人たちの療育活動や、お年寄りのデイケアなどの活動を行っている施設・団体に寄贈した。

「NHK福祉大相撲」の様子は、2月22日 総合テレビで放送された。

<贈呈先>

社会福祉法人	みんなの輪 わ・は・わ大郷	(宮城県大郷町)
社会福祉法人	邑元会 しびらき	(埼玉県さいたま市)
社会福祉法人	ジェイエー長野会 特別養護老人ホーム りんごの郷	(長野市)
社会福祉法人	光富士白苑 光富士白苑デイサービスセンター	(山口県光市)
社会福祉法人	コージー南国	(高知県南国市)
社会福祉法人	あしたば	(大分県佐伯市)

(5) 催物への招待

事業団の催し物の開催時に、視覚障害の人や知的障害のある人など502人を招待した。

			招待者
12月25日	N響「第9」チャリティーコンサート	NHKホール	162人
(2020年)			
2月11日	NHK福祉大相撲	両国 国技館	340人
			合計：502人

7. 広報活動

事業団の活動を周知するために事業内容を紹介した印刷物をイベント会場などで配布し、福祉活動への理解と協力を求めた。

ホームページやSNSで、催し物の周知や活動報告、福祉ビデオライブラリーのPRなどを発信すると共に、新たにホームページの中で、フォーラムや福祉DVDの動画の一部を見られるようにするなど、ネット時代に対応した広報活動に努めた。

(1) 広報物の作成・配布

○NHK厚生文化事業団年報「支えあい 共に生きていくために」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。

○事業団の業務を紹介したパンフレット「あなたのやさしさ届けます」を作成して、イベント会場などで配布した。また会場では、イベントのテーマにそった冊子や、事業団作成の福祉DVD教材や福祉ビデオライブラリーの利用案内などのチラシも配布した。

(2) ホームページの充実による広報活動の強化

○事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、様々な情報を活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。

掲載している主な内容は、

- ・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
 - ・事業団が制作した冊子の中身。「認知症」や「がん緩和ケア」など
 - ・「NHK障害福祉賞」などの入選作品の紹介
 - ・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をレポートする「わかばなかま」
 - ・「福祉ビデオライブラリー」の目録や予約システム
 - ・寄付について
- ・・・・など

○ホームページでの動画の配信にも努めた。

- ・福祉DVD [摂食障害 理解と回復のために] の動画の一部
- ・認知症とともに生きるまち大賞の受賞団体の活動映像

8. 働き方改革とガバナンスの強化等

(1) 「働き方改革」

NHKグループ一体となった「働き方改革」に取り組み、改正労働基準法をふまえて、より創造性を発揮できる環境の整備に努めた。毎月の「働き方総点検」で、時間外や勤労休暇取得日数、業務量のバランスなどを把握し、適正な勤務管理に努めた。事業団の必須目標とした勤労休暇7日間の取得を全員が達成した。

(2) ガバナンスの強化

○外部の専門団体との連携

社会福祉法人として、社会福祉法に則ったガバナンスの強化や運営の透明化、財務規律の厳格化が求められている。また、NHKグループの一員として、効率的で透明性の高い組織運営が求められている。これらの課題に対応するため、外部の専門団体との間で顧問契約を結び、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティ等の重点リスクについて、逐次、助言を得て業務を進めた。

NHKグループの「統合ネット」に参加して、NHKと連携して情報セキュリティ全般の強化を図った。財務管理は社会福祉法人会計基準に対応した財務システムによって行った。

○内部監査と会計監査等

内部監査はNHKビジネスクリエイト、会計監査はあずさ監査法人の専門チームに委託して行った。10月にNHK内部監査室調査を受けた。調査で指摘された事項は、各専門団体から助言を受け年内に速やかに対処した。

○業務の適正を確保するための体制の評価

昨年に引き続き、内部統制について「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」の6つの観点から整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出したうえで、必要な対応(内部統制)を実施しているか評価した。評価の結果、2020年3月31日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

(3) 各種研修の実施

NHK放送研修センターのeラーニング「事例に学ぶコンプライアンス」への参加や、外部講師を招いて事業団独自で開催した「情報セキュリティ研修」の受講などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

9. 後援・協賛した事業

福祉、教育、医療団体などが実施する研修、啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力し、本部・支局合わせて156件の事業を後援、協賛した。

○福祉関連の催し（123件）

「自閉症啓発デー2019」「第47回日本車いすバスケットボール選手権大会」

「高校生ボランティア・アワード」「福祉の就職総合フェア2019 in OSAKA」

「第59回愛知県身体障害者福祉大会」

などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（33件）

「国展」「春陽展」「東光展」「二科展」「三多摩総合舞踊発表会」「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINグランプリ2019」「手工芸作品展」「手づくりフェア in 九州」などのチャリティー催しを後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

10. 寄付金

当事業団への寄付金には二種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

2019年度は、

一般寄付金が	279件	6億5,964万2,952円
チャリティー寄付金が	49件	4,434万3,631円
寄付金総額は、	266件	7億 398万6,583円

に上った。

11. 賛助会員・維持会員等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は1団体1口の新規入会があった。しかし業績不振等により、退会7団体7口の申し出もあり、合わせて121団体から1,900万円の支援を受けた。

個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、NHKおよびNHK関連団体役職員、NHK旧友会員など5,826人の方々の協力を得て、その額は1,000万円に達した。

〔特別賛助会員〕

- ・第一生命保険
- ・日立製作所
- ・富士通
- ・みずほ銀行
- ・NHKエンタープライズ
- ・NHKテクノロジーズ
- ・ノービスハイエストサービス

〔賛助会員〕

- ・愛知県農業協同組合中央会
- ・アーティストハウスピラミッド
- ・池上通信機
- ・栄光舎
- ・遠藤波津子美容室
- ・勝亦電機製作所
- ・川嶋印刷
- ・近物レックス
- ・KDDI
- ・コメリ
- ・シーズコーポレーション
- ・島精機製作所
- ・スタービーイング
- ・住江織物
- ・セントラルスポーツ
- ・総合システム管理
- ・大和証券
- ・ツムラ
- ・帝都自動車交通
- ・東新紙業
- ・西川
- ・日本医師会
- ・日本ガイシ
- ・日本たばこ産業
- ・野村證券
- ・バリュープランニング
- ・PL東京健康管理センター
- ・アットホーム
- ・葵設備工事
- ・石川近鉄タクシー
- ・エクサート松崎
- ・岡谷鋼機
- ・加藤電気工業所
- ・北日本モーター
- ・近鉄タクシー
- ・江綿
- ・近藤産興
- ・ジーズ・コーポレーション
- ・小島学館
- ・スマートコンセプト
- ・全国大陶器市振興組合
- ・全日本空輸
- ・ダイキン工業
- ・タカラベルモント
- ・つむら工芸
- ・電気興業
- ・トヨタ自動車
- ・日産自動車
- ・日本音楽事業者協会
- ・日本交通
- ・日本電気
- ・バーニングプロダクション
- ・阪急産業
- ・日立国際電気
- ・アーチェリープロダクション
- ・アフラック
- ・岩谷産業
- ・荏原冷熱システム
- ・オフィスプロペラ
- ・川崎重工業
- ・木下サーカス
- ・グリーン・アート
- ・国際自動車
- ・サンセイ
- ・JTS
- ・白川プロ
- ・住友電気工業
- ・全国陶器祭り振興会
- ・ゼンリン
- ・大和自動車交通
- ・津幡技研工業
- ・帝産キャブ名古屋
- ・東芝インフラシステムズ
- ・名古屋三越
- ・日産自動車販売
- ・日本音楽著作権協会
- ・日本ゴルフツアー機構
- ・ネイチャー
- ・花岡無線電機
- ・阪急電鉄
- ・福建社

- ・ホテルオークラ東京
- ・ミス・パリ
- ・明電舎
- ・森平舞台機構
- ・ランドマークプロダクツ
- ・NHKアート
- ・NHKエデュケーショナル
- ・NHKサービスセンター
- ・NHKプラネット
- ・NHK放送研修センター
- ・NHK学園
- ・丸一鋼管
- ・三井住友信託銀行
- ・メデア 21
- ・ヨコシネディーアイエー
- ・リンレイ
- ・NHKインターナショナル
- ・NHKエンジニアリングシステム
- ・NHK出版
- ・NHKプロモーション
- ・共栄サービス
- ・日本放送協会共済会
- ・丸徳産業
- ・三菱UFJ信託銀行
- ・モリタホールディングス
- ・吉本興業
- ・WOWOW
- ・NHK営業サービス
- ・NHKグローバルメディアサービス
- ・NHKビジネスクリエイト
- ・NHK文化センター
- ・日本国際放送
- ・放送衛星システム

(2020. 3. 31現在)

12. 役員

(1) 役員体制 (2020年3月31日現在)

理事長	鈴木 賢一	
常務理事	石川 信	
理事 (非常勤)	安齋 尚志	(株式会社NHKエンタープライズ代表取締役社長)
理事 (非常勤)	上野 一彦	(東京学芸大学名誉教授)
理事 (非常勤)	伍藤 忠春	(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会評議員)
理事 (非常勤)	佐々木 桃子	(社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会理事長)
理事 (非常勤)	中村 吉夫	(社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長)
理事 (非常勤)	橋本 正明	(社会福祉法人至誠学舎立川理事長)
理事 (非常勤)	福山 浩一郎	(NHK視聴者総局事業センター長)
理事 (非常勤)	安川 尚宏	(NHK制作局制作主幹)
監事 (非常勤)	渋谷 篤男	(社会福祉法人中央共同募金会常務理事)
監事 (非常勤)	友田 孝兄	(NHK営業サービス株式会社常務取締役)

(2) 理事および監事に支払った報酬等の額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数 (人)
		定額部分	変動部分	
理 事 (非常勤役員を除く)	29,556	22,836	6,720	2人
監 事 (非常勤役員を除く)	0	0	0	0人
非 常 勤 役 員	230	230	0	10人

※NHKおよびNHK関連団体の役職員としての立場を有する非常勤理事3人・非常勤監事1人に対しては、報酬を支払っていない。

※上記以外の非常勤理事5人・非常勤監事1人に対しては、理事会に出席の都度、定額を支払っている。

13. 2019年度末従業員数

(14人)

[東京：11人、大阪：1人、名古屋：1人、福岡：1人]